

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2024 Nov

第125号

発掘
調査遺跡
紹介

村上市上野遺跡 南魚沼市六日町藤塚遺跡 企画展案内

小千谷市「ホントカ。」オープン 世界遺産「佐渡島の金山」



何が出るかな？

(キッズ考古学教室 上野遺跡発掘体験)



2024年度
発掘調査
遺跡の紹介 1

かみの 上野遺跡

縄文時代の大集落と注口土器

所在地：村上市猿沢・檜原

三面川の支流・高根川右岸の扇状地に立地する上野遺跡では、縄文時代後期前葉（約4,000年前）の集落を調査しています。今年度の調査では、建物や遺構の配置、廃棄域の形成過程と集落との関係を把握し、たてあな堅穴建物・ほったてばしら掘立柱建物・へいち平地建物・しきいした敷石建物・どこう土坑などを調査しました。

調査区を北東側から南西方向に走る流路では、人為的に埋め戻された土の中から土器・石器・石製品等が面的に出土し、流路の底面から概ね順々に埋められたことが分かりました。埋まり切った後から掘り込まれた柱穴を検出し、埋め戻した後は建物が建っていたことが分かっています。

調査区北側では石囲炉を持つ直径が約3mの円形の堅穴建物を検出しました。完形の埋設土器が設置されていた堅穴建物も検出しています。

このほか、土坑からはほぼ完形の注口土器が口縁を下にした状態で出土しました。土器の内部に

は土がほとんど入っていない珍しい状況です。また、掘立柱建物の柱穴では、柱痕の深くから、注口土器が横たわって出土しました。ほぼ完形であったことから、柱を抜いた後に丁寧に埋納したと考えられます。

今年度の調査では、遺構の切り合い関係から、堅穴建物→掘立柱建物→平地建物と概ね変遷することが明らかになりました。各形態の建物が併存していた可能性もありますが、集落の変遷を捉えるうえで重要な所見です。今後の整理作業で詳細に検討する予定です。

このように今年度の上野遺跡の調査では、建物の変遷や集落の構造を知る手がかりが得られ、注口土器を使用した儀礼の痕跡も発見されました。上野遺跡の集落の様相がより明確に分かるようになりました。

(加藤元康)



調査区全景（北東から）



柱痕からの注口土器の出土状況



石囲炉を持つ堅穴建物



左：掘立柱建物の柱痕から出土した注口土器
右：土坑から逆さで出土した注口土器



むいかまちふじづか 六日町藤塚遺跡

溝で区画された飛鳥時代の集落

所在地：南魚沼市余川

2024年度
発掘調査
遺跡の紹介2

六日町藤塚遺跡は南魚沼市に所在する遺跡です。庄之又川によって形成された扇状地に立地しており、標高は約180mを測ります。

発掘調査は国道17号六日町バイパスと国道253号八箇峠道路の建設に伴い実施しています。2017年から2019年まで実施した調査では、古墳時代中期から後期にかけての集落と祭祀場が見つっています。

また2022年度の調査では古墳時代後期の大規模な土器集積遺構や子持ち勾玉が発見され注目されました。

2024年度は、2地区で発掘調査を実施しています。六日町バイパス建設に伴い発掘調査を実施している調査区を9次調査区、八箇峠道路建設に伴い発掘調査を実施している調査区を10次調査区と呼んでいます。

9次調査区は平安時代から鎌倉時代・室町時代の土坑・ピット・溝、飛鳥時代から奈良時代初め

ころの畑作溝・ピット、古墳時代後期の土器集積遺構などがみつけられました。土器集積遺構は土器が数個体まとまっている小規模なものが2つ確認でき、2つとも白玉を伴っていました。白玉の直径は3～5mm前後です。出土遺物は白玉のほかに土師器・黒色土器・須恵器・珠洲焼・鉄製品があります。鉄製品は古墳時代後期のものです。

10次調査区は平安時代から鎌倉時代・室町時代の土坑・ピット・溝、飛鳥時代～奈良時代初めころの区画溝・土坑・ピットなどがみつけられました。区画溝は出土遺物から飛鳥時代の終わりに掘削されたと考えられます。方位にほぼ一致した南～北方向の溝で、幅2.7～3.1m、深さは深いところで約80cmあります。途切れて土橋状となる地点が2か所確認できました。溝の東側は土坑・ピットなどが集中してみつっています。ピットは直径約90cmのものもありました。出土遺物は土師器・須恵器・土製紡錘車などです。（春日真実）



9次調査区と10次調査区（北東から）



9次調査区 飛鳥時代から奈良時代初めころの畑作溝とピット（北から）



9次調査区 古墳時代後期の土師器高杯・白玉・鉄製品出土状況（東から）



10次調査区 飛鳥時代から奈良時代初めころの遺構（北西から）



埋文
インフォ
メーション

2024年度企画展2
発掘！新潟の遺跡2024

1月18日（土）～3月20日（木・祝）（期間中無休）

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団が2024年度に実施した最新の発掘調査と整理作業の成果を出土品や写真で解説します。村上市上野遺跡（縄文時代後期）、南魚沼市六日町藤塚遺跡（古墳時代～鎌倉時代）、南魚沼市金屋遺跡（奈良・平安時代）、柏崎市丘江遺跡（弥生・奈良～室町時代）、柏崎市山崎遺跡（鎌倉～室町時代）、上越市館遺跡・堂古遺跡・二反割遺跡（奈良～室町時代）を展示します。是非ご覧下さい。

- ◆ 会期：2025年1月18日（土）～3月20日（木・祝）
- ◆ 時間：9：00～17：00
- ◆ 会場：新潟県埋蔵文化財センター
- ◆ 観覧無料
- ◆ 関連催物
 - ・発掘こぼれ話
 - 1月22日（水）、2月12日（水）
 - いずれも13：50～15：20
 - 定員：会場80名（当日先着）



上野遺跡 特殊な大型掘立柱建物



六日町藤塚遺跡 7～8世紀のフラスコ形提瓶

第28回遺跡発掘調査報告会

3月9日（日） 10：00～16：00

2024年度の調査成果報告、および縄文時代後期の村上市上野遺跡について、「建物から見た縄文後期の上野遺跡」をテーマにしたシンポジウムを行います。上野遺跡は全国的に見てもきわめて珍しい形の特殊な大型掘立柱建物を含む大集落遺跡です。詳細は企画展2チラシ、ホームページをご覧ください。

- ◆ 開催日：2025年3月9日（日）
- ◆ 時間：10：00～16：00
- ◆ 会場：新潟県埋蔵文化財センター
（オンライン配信あり）

- ◆ 参加無料
- ◆ 内容
 - 2024年度の調査成果報告（南魚沼市六日町藤塚遺跡、南魚沼市金屋遺跡、柏崎市丘江遺跡、柏崎市山崎遺跡、上越市館遺跡・堂古遺跡・二反割遺跡）
 - シンポジウム「建物からみた縄文後期の上野遺跡」
 - ・村上市上野遺跡の建物と集落
 - ・縄文時代後期の集落と社会（谷口康浩氏／國學院大學）
 - ・パネルディスカッション



埋文
コラム

小千谷市「ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。」 ～地域の「賑わい・交流・憩いの創出」のために～

【ホントカ。について】

ホントカ。は、図書館と郷土資料館、市民活動の場や子どもの遊び場、スタジオ、カフェ、イベントスペース等が混じり合う、小千谷市に出来た公共の複合施設であり、2024年9月28日に小千谷市本町1丁目に誕生しました。人々の知を支え、地域と暮らしを育む拠点となることを使命として、多様な可能性を生み出す共創の場を持続することを目指します。

建物は大きく、フロート・アンカー・ルーフという3つの要素からなります。アンカーはそれぞれの特性をもった9つの空間であり、憩い、集い、交流の場として利用でき、趣味やまちづくりなどの活動・交流が行われます。フロートは、情報とその関係性を紡ぐ場です。動く本棚や展示台により、その時々で本や郷土資料等、資料と資料の関係性を組み替えることで、新たな資料や情報の関心の気づきや学びが生まれます。ルーフはホントカ。を大らかに包む大屋根です。小千谷市民から愛される景観である越後三山、信濃川、小千谷の街並み等、周辺のパノラマを楽しむことができ、様々なイベントに使うこともできます。

このようにホントカ。は、誰でも心地よく過ごすことができ、多様な情報や人と出会うことで、新たな価値や未来を創り出すことができます。



ホントカ。外観（上空から俯瞰）

【小千谷市郷土資料館について】

ホントカ。内の「メインエリア」(博アンカー)、「フロートエリア」、「知エリア」にまたがる700㎡の郷土資料館です。小千谷の「ひと」「もの」「こと」、歴史・文化の収集・調査・展示のための空間であり、「みんなで持ち寄り、蓄積・編集・発信し、地域を知ることで地域を新たに発見する拠点」となります。

ここで展示される資料として、考古資料・歴史資料・美術工芸資料の他に図書、デジタル化されたデータ、Web情報等資料があります。この資料を常設展・企画展において展示するにあたり、行政が一方的に展示品を揃え「サービスとしての展示」を提供するのではなく、市民が思い思いに持ち寄って共有できる仕組みを実践していきます。

このコンテンツの例として、市民が気軽に蓄積することができるよう整備されたデジタルアーカイブシステムがあります。これは市民から蓄積された画像やメタデータ等資料情報が、行政の文化財管理システムと連携しており、みんなでその価値に気づきあうためのWebミュージアムとして機能します。こうして誰の家にも眠る宝を自分達で発見し、継続的な活動を通して、知的探求心を育むことで、地域における新たな魅力や価値を共に創り出す場としての役割を担います。



小千谷市郷土資料館（常設展の様子）

(小千谷市にぎわい交流課 白井雅明)



埋文
インフォ
メーション

「佐渡島（さど）の金山」世界文化遺産登録！ 県市連携講座を開催します

「佐渡島の金山」が世界文化遺産に登録！

2024年7月27日、第46回ユネスコ世界遺産委員会において、「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録が決定しました。当日は、佐渡・新潟・東京の3会場でパブリックビューイングを行い、参加者の皆様と登録の喜びを分かち合いました。これまで、「佐渡島の金山」の世界遺産登録の実現に向け、ご支援・ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

「佐渡島の金山」は西三川砂金山と相川・鶴子金銀山の2つのエリアから構成されています。16世紀後半から19世紀半ば、世界的に採掘技術の機械化が進んだ時代において、佐渡では鉱山の特性に合わせた手作業による採掘が250年以上にわたり継続して行われました。さらに、幕府の管理下

に置かれると、効率的な管理・労働体制が敷かれ、採掘から小判の生産までを一貫して行う金生産システムが築かれました。

今後は、世界の宝となった「佐渡島の金山」を未来に継承していくため、構成資産の保存・活用に取り組んでいくとともに、多くの方々に「佐渡島の金山」の価値や魅力を発信していきます。世界遺産登録推進室では、一般の皆様に向けた出前授業や連携講座といった催しも行っていますので、ぜひホームページから情報をチェックしてみてください！



パブリックビューイングの様子

「佐渡島の金山」県市連携講座（新潟会場）

世界遺産登録推進室では、上越・長岡・新潟の3会場で、「佐渡島の金山」の魅力や、佐渡・新潟県内の文化財の魅力を発信する「佐渡島の金山」県市連携講座を実施しています。

現在、新潟会場の参加者を募集中です。多くの皆様からのご参加をお待ちしております。

【新潟会場】

- ◆ 日時：2025年3月9日（日）13：30～16：00
※入場開始：13：00から
- ◆ 会場：クロスパルにいがた4階 映像ホール（新潟市中央区）
- ◆ 定員：150名 ※要申込

- ◆ 講師：①間仁田 真澄 氏（株式会社プレッセプレッセ代表取締役）
②小田 由美子 氏（前新潟県文化行政課世界遺産登録推進室長）
- ◆ 演題：①取材を通して感じる佐渡の魅力（仮）
②私を感じた「佐渡島の金山」・佐渡の魅力（仮）
- ◆ 座談会：大人のための佐渡探訪
※詳細は「佐渡島の金山」ホームページをご確認ください。（<https://www.sado-goldmine.jp/>）
- ◆ お問い合わせ
新潟県文化課 世界遺産登録推進室
電話：025-280-5714
メール：ngt150030@pref.niigata.lg.jp
（新潟県文化課 平山千尋）



埋文にいがた 第125号

2024年11月29日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL:(0250)25-3981 FAX:(0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: <https://www.maibun.net/>



「埋文にいがた」のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。上の URL からご確認ください。